

## ジュゴンが死んだ！

国の天然記念物であり、沖縄では古くから「龍宮神」としてまつられ、人びとは祠、ジュゴン像、郵便切手、民話などなど「平和の象徴」として愛され、親しまれています。

そのジュゴンが3月19日、今帰仁村の運天漁港沖の防波堤に漂着しているのを漁師が発見、回収し漁協内の冷蔵庫に保管。県や環境省、沖縄美ら海財団が確認したと沖縄県内の2紙が翌日報道しました。このニュースに県民は大きなショックと悲しみ、辺野古、大浦湾の生息海域に軍事基地建設を強行する安倍政権に怒りをあらわしています。

ジュゴン保護キャンペーンセンターの吉川秀樹さんは、3頭のうち1頭が死んだことは重大な意味を持ち危機的だとして、「生息海域への立ち入り禁止する保護区制定し、まずは工事を1~2年止め、残りの2頭が生息しているかどうか確認する必要がある」（沖縄タイムス3月20日付）



また、ジュゴンネットワーク沖縄、北限のジュゴン調査チーム・ザン、日本自然保護協会は、基地建設工事中の2015年6月以降、個体Cが消息不明、大浦湾に隣接する嘉陽海域で20年間定住していた個体Aも2018年10月以降、食み跡や姿が見られなくなっていることから、ジュゴン個体群の最大の危機として「緊急声明」を発し、環境省、防衛省に対して、基地建設工事中の中止、沖縄島および周辺離島を含むジュゴンの広域調査の緊急実施、国内希少野生動植物への選定などを求めています。

沖縄防衛局は、嘉陽沖で食み跡を2015年9月には月に120本が確認されていたが、2018年4月以降1本も確認されていない状態が続いていると認めながら、工事の影響とは言えないとそぶいています。2014年8月から制限海域を拡大し制限ブイを設置、海底のボーリング調査、その後の本部・塩川港から土砂がK9護岸に搬入する大型貨物運搬船が、そして昨年9月の台風24号で損傷した塩川港が使用不能となるや、民間の琉球セメントの棧橋を使用目的を強制的に変更して、違法な赤土まじりの土砂を大浦湾に運び入れています。さらにK8護岸建設を強行しています。辺野古側の埋立も2018年12月14日から行い、さらに今年の3月25日から新たな工区への埋立も並行して行っています。

自然豊かな海を埋め立てたり、土砂投入のための護岸工事をするなどで、ジュゴンの死や消息不明と関係がないと言えるのか、腹立たしい限りです。

最近、大浦湾に運搬される土砂はダンプで800台分、K8護岸工事に使用している岩石は毎日300台分のダンプが、抗議する私たちを機動隊が暴力的に排除したうえで、ゲートから入っています。名護の安和や大浦湾の海上では、運搬船の出航を阻止しようと、しがみつくように抵抗する辺野古ブルーのカヌーや抗議船に、海上保安官が容赦なく襲いかかってきています。

平和フォーラム沖縄事務所としても死んだジュゴンに哀悼をささげるとともに、これ以上のジュゴンや沖縄ハマサンゴなどの希少野生動植物の保護のため、安倍政権に対して次のように抗議を込めて声明としておきます。

①辺野古、大浦湾での軍事基地建設を即時断念しろ！

②環境省は、北限ジュゴンを保護するため調査、保護政策を明確に打ち出せ！

③防衛省は、今進行している基地建設は、活断層、超軟弱地盤などから工事を断念し、もとの自然に戻す工事を直ちにかかれ！（写真は3月31日、歌手の海勢頭豊さんらの呼びかけ辺野古の浜で開催された「ジュゴンの死を悼む会」が主催したコンサートで展示されたジュゴンのオブジェ。）